

令和３年度 学校総合評価

６ 今年度の重点目標に対する総合評価

再編統合により令和２年４月に新南砺福野高校が開設され、今年度が２年目となる。昨年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、約２ヶ月の休校に始まり、数々の制限の中での活動を強いられた状況であった。今年度は昨年の経験を踏まえた上で、規模の縮小や実施内容の精選など工夫を凝らし、全校生徒と教職員の意思統一のもと学習活動や学校行事に取り組むことができた。未だ全校生徒が屋内で集うことはできない状況であるが、コロナ感染防止対策をとりながらの活動は当然のこととして受け止め、学校全体が危機感を保ちつつ活動を継続している。

５つの重点項目のうち、「学習指導（教科指導）」と「学校生活（生徒指導・健康管理）」の２つは、評価をＡとした。余儀なく休校・分散登校を課せられたとはいえ、オンライン授業へはスムーズに対応でき、多くの教員がタブレットを用いての授業に抵抗がなくなってきた。また、面談を通しての生徒指導や健康・安全に関する情報提供、ＳＮＳ利用に関するＨＲなどの取り組みが効果を上げ、心身共に健康な福高生が増えていると実感できたからである。「進路支援（進路指導）」では、進路指導についての生徒の満足度が昨年度より少し低下したが、資格や試験の合格率は例年通り高い結果が得られた。「特別活動（特別活動指導・読書指導）」については、工夫しながら殆どの学校行事を開催し、また、目標には届かなかったものの多くの部活動において全国大会レベルの出場を果たすなど、多方面で生徒が活躍する様子を見ることができた。さらに、年１４回のお便りの発行など活発な図書広報活動ができたことから、ほぼ目標を達成したと言える。「その他（保護者や地域との連携）」については、福高だよりは予定数を発行できなかったが、アンケートや座談会を通して保護者の思いや考えを把握した上で、会報の発行や研修会などのＰＴＡ活動を予定通り実施することができた。以上から、この３項目は評価をＢとした。

今年度の取り組みの結果を総合的に考察することで、次年度の取り組みの更なる向上につなげていきたい。

７ 次年度へ向けての課題と方策

令和４年度から、３学年とも普通科、国際科、農業環境科、福祉科の４学科がそろい、生徒数約７５０名の大規模校となる。「学び合い高め合おう」というスクールモットーにふさわしく、各学科の特徴を生かしつつ、学校や学科の枠を超えて、学習や部活動、特別活動等を通して、主体的・意欲的そして協働的に取り組む生徒の育成を目指す。

学校の課題解決には、生徒と教職員が一丸となって取り組むと共に、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。これまで地域に根ざした教育活動を行ってきた本校として、保護者・地域と教育諸活動や生徒の活躍の様子などの情報共有を図りつつ、広く世界へ発信することを見据えた取り組みにも力を入れていく。

8 学校アクションプラン

平成3年度 南砺福野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習指導 (教科指導)	
重点課題	教育クラウドやタブレットP Cを活用した授業方法の実践研究 互見授業による教師の指導力向上とアクティブ・ラーニングの推進	
現 状	・新教育課程や観点別評価の導入に向けて、その準備を具体的に進める必要がある。 ・若手教員が多く赴任してきており、授業の進め方や授業課題の与え方などに不安を感じている教員も多く、経験のある教員から有効な助言や指導が希求とされている。 ・4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。また、タブレットP Cと天吊りプロジェクターが普通教室に整備され、全生徒がタブレットP Cを1人1台持つことを効果的に生かす指導研究が求められる。I C T機器を活用した授業を行っている教員を中心に効果的な活用方法を実践研究するなど、活発な相互研修の実施が望まれる。	
達成目標	教育クラウドを活用した学習指導やタブレットP Cを活用した授業を行った教員の割合	互見授業および校内外の研修会等に、教員一人あたりの参加回数
	① 80%以上	② 4回以上
方 策	・I C T機器の研修会を行い、基本操作を全教員ができるようにする。 ・各教科に授業実践リーダーを置き、授業での活用方法や問題点などを研究し、教科内での活用を推進する。 ・研究授業を行い、検討を通して指導スキルを高めていく。	・授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。 ・若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。 ・新教育課程やI C T・新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。
達 成 度	90%	教員一人あたり参加回数平均4.1回
具体的な取組状況	・新型コロナウイルス感染防止による休校中出席停止の生徒のためにオンライン授業を行った。 ・教員・生徒全員がタブレットP Cを所有しており、授業で活用している。	・今年も授業公開期間を設定し、教科外の授業も積極的に参観するよう呼びかけを行った。 ・若手教員と先輩教員とでペアを組み、学習指導等の研鑽を図った。 ・研修会の案内や先進的な取り組み事例などは先生方へ案内をした。
評 価	A	・休校や分散授業の期間があったため、教員も生徒もタブレットP Cの使用機会が増えたことで、ほとんどの若手の教員は授業において画像をスクリーンに投影して行うなど、授業効率も向上した。この他携帯拡声器を使用して授業する形態も定着した。 ・互見授業やI C T活用研修会を実施し、I C T教育を推進していくことができた。
学校関係者の意見	コロナ禍が収まってもより効果的にタブレットを用いての授業を行ってほしい。その方策についても考えてほしい。	
次年度へ向けての課題	・I C T環境は拡充されたので、生徒へ貸与P Cの管理やネットリテラシーへの指導を改めて行いたい。 ・互見授業はこれからも継続して実施したいが、合評会などの研修を各教科で行うよう働きかけたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和3年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、自ら考え、判断し行動する資質の育成	
現 状	・怠惰による遅刻は減少しているが、心身の不調により遅刻する生徒は増加している。 ・スマホやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒が増えてきている。 ・感染症予防への具体的対策として、身近な学習環境を整備するなど対応力を育成する必要がある。	
達成目標	① 心身の不調により、遅刻が3回以上の生徒に対する面談の実施	② 生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	② 面談の実施率 100%	② 年間10回以上
方 策	・生徒の出席状況を確認し、教育相談室、学年、教科担当との連携を密にして生徒支援に努める。 ・SNSの利用について、自律を促す取り組みを実施する。	・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。
達 成 度	① 遅刻が3回以上の生徒に対する面談の実施 3人／4人 (達成度 75%)	② 全校対象の講演会を2学年のみで行う、グループ分けして行う等、密を防ぐ工夫をして実施した。 感染症に対する情報提供10数回 (達成度 95%)
具体的な取組状況	・各学期末の生徒アンケートで希望する生徒には、SCとの相談機会を可能な限り設け、生徒支援に努めた。 ・問題を抱える生徒に対するケース会議を行い、チームで支援する体制を整えた。 ・1、2学期に統一HRを設け、各クラスでネットやSNSの利用について、時間や個人情報の取扱いなどのネットルールを決めた。また、振り返り週間の中で、事後アンケートを行い、その結果をクラス内で共有することで、生徒の自律を促した。	・心の健康に関する講演会、性に関する講演会、薬物乱用防止の講演会、セルフケア研修会実施 ・健康観察表付き感染症対策について配布(12回) ・新型コロナウイルス対応 「福校 新しい生活様式」などの配布、掲示(4回) ・生徒保健厚生委員会による保健だより発行(6回) ・コロナ予防動画の作成 ・昼食時、密を避けるため特別教室を利用。保健厚生委員会による換気、手洗い、黙食の放送。教員による教室の巡視 ・文化展での保健厚生委員会による、食生活についての展示
評 価	A	・生徒との面談を通して、社会性を育むための支援を行うことができた。 ・ネットやSNSの利用に関するHR活動を、生徒の自律を促す取り組みとして実施することができた。 ・密を避ける工夫をしながら、講演会を実施した。 ・コロナ対策が続いているため、感染予防への意識を保ち続けさせることに苦労した。
学校関係者の意見	体調不良による遅刻が増えているようだが、今後も面談をはじめとした具体策を考えていってほしい。	
次年度へ向けての課題	・怠惰や心身の不調による遅刻の生徒数は少ないが、面談は効果があるので引き続き行う。 ・スマホやインターネットなどを長時間使用することで、生活のリズムを崩す生徒がみられるので、ネットやSNSの利用について自律を促す取り組みを継続する。 ・感染症予防の正確な知識を身につけるためにも、また変異株が代わることにより対応が代わることもあり得るので、新しい情報を提供し続け、生徒自らが企画する活動や講演会を立案する必要がある。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和3年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	①総合の時間や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福） ②生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福） ③検定資格の取得に向けた意識の高揚と合格者数の増加（国・農） ④受験者全員の介護福祉士国家資格取得（福）	
現 状	①多様化していく生徒達に対して、個々に見合った対応など指導の工夫が必要である。 ②広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探することは困難であるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ③国際科では、「読む・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーション、エッセイ、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどの活動を積極的に行っている。また、4技能の伸びを測定するために、毎年全員 GTEC を受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ④農業環境科では、農業技術検定・危険物取扱者は全員、測量士補・造園施工管理技術検定は類型別に全員を目標に学習し、余力のあるものはさらに各自で資格取得に挑戦しているが、各資格において知識が定着しない生徒もいる。 ⑤福祉科では、平成26年度入学生より、本校在学中（3年の1月）に介護福祉士国家試験を受験することが可能となり、平成28年度より介護福祉士国家試験を受験している。本校福祉科の介護福祉士試験の合格率は、平成28年度卒業生が96.6%、平成29年度から令和2年度の4年間100%を達成している。福祉科3年間の学びの集大成として国家試験合格を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための指導・支援を継続していく必要がある。	
達成目標	①② 以下の観点での生徒の満足度 ・先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 ・進路についての面接がよく行われている。 ・進路に関する情報が豊富である。 ・進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 ・総合の時間は進路を考える上で役立っている。	③ 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科） ④ 全国に通用する各種資格・検定に3つ以上取得の生徒の割合（農業環境科） ⑤ 資格試験の合格率（福祉科）
	①② 80%以上	③ 100%（国際科） ④ 100%（農業環境科） ⑤ 介護福祉士国家試験100%（福祉科）
方 策	・進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 ・進路に関する集会や面接を充実させる。 また、総合的な学習の時間を効果的に活用する。	・総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話など活用し、進路意識の高揚を図る。 ・目標を持って資格取得試験に向かうよう、指導法を工夫し学習習慣を身につけさせる。 ・関連科目の担当者同士の連絡を密にし、資格取得の意義を生徒に理解させ、意欲を引き出すとともに学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、適切な課題等に取り組ませる。 ・授業等で使用した教材を教員間で共有し、生徒の実態に応じて活用し、授業改善を行う。また、教員が介護福祉士国家試験の過去問等を解き、出題傾向を把握する。 ・土曜特別講座における外部講師による受験対策を行う。
達 成 度	進路に関するアンケート 6項目の平均は 73.7% ・先生は、生徒の学力向上に努めている。（91.9%） ・進路についての面談がよく行われている。（72.5%） ・進路に関する情報が豊富である。（76.2%） ・進路講話は、進路を考える上で役に立っている。（79.7%）	・国際科の在籍は2学年までなので、未定。 ・農業環境科で3つ以上の資格を取得した生徒はクラス全体の71.4%だった。 ・介護福祉士国家試験 合格率 （合格発表は3月25日）

	・学年集会は、進路を考える上で役に立っている。(73.4%) ・総合の時間は、進路を考える上で役に立っている。(84.3%)	
具体的な 取組状況	・1年進路セミナー(普国農福)は11講座を開講し、一人2講座を受講した。 ・コロナ禍の中、2年普通科研修旅行では関西地区の大学や企業等、2年農業環境科では四国地方の農業高校や企業等で研修した。 ・大学出張講座は富山大学、富山県立大学など、12学科の講座に延べ134名が参加した。 ・外部講師の進学講話を各学年1回実施した。 ・各学年とも保護者懇談会を実施し、進路のしおり等を進路懇談会等で活用した。	
評 価	B	・進路セミナー、大学出張講座、進学講話等では、生徒の要望・実態に合わせた効果的な取り組みとなるよう工夫して実施することができた。 ・各学年において進路のしおり等の資料を作成し、生徒・保護者の進路に関する知識を深めることができた。 ・進路に関するアンケート結果では、5つの項目で昨年度を下回る結果であった。
学校関係 者の意見	福祉科に関して、資格取得へのプレッシャーは大きいものと推測する。みんなで合格できれば、より大きな達成感が得られると思う。このことが生徒にとって良い方向へ向かっているのなら問題は無いが、そのようにならなかったときのフォローを考えておいてほしい。	
次年度へ 向けての 課 題	・各進路行事について、生徒の実態に合わせた効果的なものになるように工夫する。 ・生徒に意欲を持たせるよう配慮しながら、学科や種類の学習に関する資格で全国に通じるものの合格率を向上させたい。朝学習や志学会、家庭学習等で取り組む内容をさらに検討し、生徒の学習意欲や理解度等を把握しながら、効果的かつ確実な学習指導を行う。 ・進路に関するアンケート結果で昨年度を下回る結果であった要因を分析し、今年度の値を上回るようにする。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和3年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	自主態度と思索する心の育成	
現 状	・全校生徒の95%が部活動に加入し、精力的に活動を行っている。県レベルを超える大会等に出場する団体数はここ数年15団体を超えている。今年度、2クラス増で、新入部員も増え、ますます活発に活動を行うことが期待される。 ・合宿や研修会等にも積極的に参加し、部活動の充実に努めている。 ・学校行事を始め、各種委員会等の特別活動にも、力を注ぎ主体的に活動を行っている。 ・読書指導では、読書会を行うことで、普段読まないようなジャンルの本を読む機会を増やすように努めている。昨年度は1年普通科のHRでビブリオバトルに取り組んだ。終了後に行ったアンケートでは、92%が「楽しかった」、90%「読みたい本があった」と回答した。読書への興味を引き出せる活動であり、今年度も取り組む。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。	
達成目標	県レベルを超える大会等への出場団体数	② 情報発信 ③ 蔵書の除籍・廃棄
	① 15団体以上（全国大会レベル5団体以上）	② お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ③ 図書原簿のデータ化の完成
方 策	・強化練習・合宿、合同部活動等を積極的に実施し、部活動の充実・活性化を図る。 ・外部講師招聘や情報収集、様々な通信機器の利用等で、指導法・練習内容のレベルアップ、生徒のモチベーションアップを図る。	・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進める。
達 成 度	① 12団体（全国大会レベル以上8団体）	② お便りの発行 年14回（予定） ③ 図書原簿のデータ化は遅滞している。
具体的な取組状況	・コロナ禍のため、合宿は行えず、強化練習も例年に比べてかなり少なかった。 ・コロナ禍で、部活動の制限がされていたが、その分工夫して、練習方法や内容の吟味を行い、成果を上げた部活動もあった。	・すべてのクラスで読書会またはビブリオバトルを1回実施した。 ・お便りの発行は予定通りの発行回数になる予定である。 ・新規事業として南砺市立図書館と共同で図書委員の実習（ポップ・ブックカバーの作成）を含む研修をおこなった。
評 価	B	・コロナ禍で、部活動に制限があったにもかかわらず、全国大会レベルの大会に出場できた団体が、8団体もあったのは、特筆すべきだと思う。 ・年度当初には予定がなかった南砺市と共同で図書委員に対する研修ができて良かった。コロナ禍の中お便りが予定通り発行できた。 ・図書原簿のデータ化は遅滞しており、すべての完成は次年度となる。蔵書の除籍・廃棄については、年度末に一部実施。
学校関係者の意見	生徒たちがコロナ禍の影響で、大会などが行われなかったことで、学校生活が後ろ向きにならないようにしてほしい。感染予防には保護者にもうまく協力してもらおうようにしてほしい。部活動に関しては大変よい成績だと感じる。今後も成績を伸ばすための支援を講じてほしい。	
次年度へ向けての課題	・コロナ禍における、部活動のあり方や、活動内容の工夫等を、吟味する必要がある。 ・図書館原簿のデータ化が遅滞しており、次年度には完成する。 ・蔵書の除籍・廃棄を継続して実施する。	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

令和3年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	その他（保護者や地域との連携）	
重点課題	保護者と連携・協力のもと、開かれた学校づくり	
現 状	- 新型コロナウイルス感染拡大防止のためPTA総会、全体委員会の中止、大学視察研修会の実施が不確実になっている。このためPTA役員の方と話し合い、密にならないように工夫してPTA活動を実施できるような工夫が必要である。 - 保護者の方々にPTA活動や学校について、関心の高揚を図る必要がある。	
達成目標	① PTA主催行事への関心の高揚	② 学校について関心の高揚
	① 各種委員会への役員出席率 50%	② 福高だよりの発行 8回
方 策	- PTA便り「いわお」で情報を伝える。 - PTA研修会で、魅力的な講師を招聘する。 - PTA役員と事務局の連絡を密にし、4つの委員会の活性に努める。	- 定期的に部会を行い、計画的に進める - 保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 - 保護者アンケートをとり、関心度を調べる（1，2学期保護者会時）
達 成 度	出席率 70%	発行回数 5回
具体的な取組状況	- PTA 会報「いわお」を7月と12月の2回発行した。 - PTA 研修会では、東京パラリンピック銀メダリストの宮島選手（車いすバスケット）を招き、講演会を行った。 - 委員会の開催案内を例年より早めに出した。 - 生徒生活指導委員会以外、1回以上、委員会を開催した。 - PTA 役員会を3回実施し、情報共有することができた。	- 総務部会を行事ごとに実施し、仕事の分担を行った。 3年農業環境科、福祉科以外、9月に初めてオンライン授業を行ったので、11月に生徒、保護者、教員を対象にオンライン授業に関するアンケート調査を実施した。保護者の回収率は70%だった。アンケート結果より、オンライン授業に関する話題で親子間のコミュニケーションが増えたことが分かった。 - 福高だよりの発行は、5回行った。夏休み明けに感染拡大したことで2学期の学校行事がなくなったため、発行できなかった。
評 価	B	- PTA会報の発行、PTA研修会を予定通り実施できた。役員会や各委員会では、多くの方に参加していただいた。 - アンケートの実施、座談会を通して、保護者の思いを確認できた。また、福高だよりは予定数を発行できなかった。
学校関係者の意見	PTA活動を円滑に実施していくためには、保護者の理解と協力が必要である。今後も互いの信頼関係のもと、業務を遂行していったほしい。	
次年度へ向けての課題	- 保護者が参加する行事では、積極的にお手伝いをしてもらい、参加意欲を高める。 - 福高だよりのアンケート、研修会は、保護者の意見を十分に聞きとる。 - 保護者の負担が増えないよう、総務部会で精査し、行事をすすめる。 - コロナ禍で行わなかった行事について、必要性も含めて役員会で検討を行う。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった）